令和6年度使用小学校教科用図書
調査研究結果報告書

# 音　　楽

# ⑥

京築教育事務所管内教科用図書調査研究協議会

# 小 学 校 教 科 書　一 覧

| 教科書種目 | 音　楽 |
|---|---|

| 発行者名 | 番号 | 略称 | 教科書名（シリーズ） |
|---|---|---|---|
| 教育出版（株） | 17 | 教　出 | 小学音楽　音楽のおくりもの |
| （株）教育芸術社 | 27 | 教　芸 | 小学生の音楽 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

| 教科書種目 | 発　行　者 | | 教科書名(シリーズ) |
|---|---|---|---|
| | 番　号 | 略　称 | |
| 音楽 | １７ | 教出 | 小学音楽<br>音楽のおくりもの |

| 項　　目 | | 項　目　毎　の　調　査　研　究　結　果 |
|---|---|---|
| 各教科共通の選定の観点 | １　内容の範囲及び程度 | ○学習指導要領の目標が達成できるような題材構成になっており、教材が充実している。<br>○歌詞の内容やリズム、音域など、各学年の発達段階に応じた教材となっている。学年の発達段階に応じた楽曲や音楽活動が用意されている。 |
| | ２　内容に関する配慮事項 | ○題材は１年生から６年生まで系統的に構成されており、他教科との関連を図った教材「たんい、九九、外国語等」も適宜取り上げられている。短い時間でも歌えるよう、「ショートタイムラーニング」を取り入れている。<br>○「学習マップ」で１年間の学習が見通せるようにしている。<br>○すべての子どもたちが学習内容へ迫ることができるように、技術的な難易度が発達段階に即したものになっている。<br>○個別の学びや学び合いの手掛かりが「まなびナビ」として記述されており、聴きとったことや感じ取ったことをもとに言葉や音楽による言語活動が充実するように工夫されている。また、「音楽を表すいろいろな言葉」や「音楽のもと」を常に確認・活用することができるように、巻末にまとめられ、言語活動が充実できるようにしている。<br>○「日本の音楽」「音楽ランド」「全校合唱」で、親しみやすい曲を多く掲載している。 |
| | ３　分量 | ○題材、教材の分量は、各学年の授業時数から見て適切である。<br>○表現(歌唱、器楽、音楽づくりの三分野)と鑑賞の二つの領域を偏りなく取り上げている。 |
| | ４　使用上の便宜 | ○各学年の本文中で学習する重要な理解事項、学習事項、リコーダーの運指図等巻末にまとめられており、いつでも振り返ったり、確かめたりしながら学習をすることができる。<br>○学習が深まるような資料等へのリンクを示す QR コードが適宜設定されており、タブレット等を活用した学習にも配慮されている。「学びリンク」があることで、奏法や解説動画、音源、解説資料などにより、わかりやすく学習を進めることができるようになっている。<br>○４年以上は、音楽家や狂言師などの紹介や声を掲載し、身の回りの様々な音楽の楽しみ方を伝えている。 |
| | ５　印刷・製本等 | ○カラーユニバーサルデザインに配慮して印刷されており、楽譜、文字、イラスト、写真も見やすく効果的に配置されている。<br>○ユニバーサルデザインフォントを使用し、見やすく、読みやすい。 |

| | |
|---|---|
| 教科ごとの選定の観点 | 1　わらべ歌や遊び歌、唱歌、各地の民謡、世界の民族音楽を取り上げた題材の中で、音楽と生活や社会の関わりに目を向けさせるようになっている。<br>2　曲想と音楽の構造などとの関わりについての気付きや理解のヒントが適宜用意されている。また、声の出し方や楽器の奏法などの技能を分かりやすく解説している。<br>3　「まなびナビ」で学習の仕方を示し、考えたり話し合ったりして表現を工夫したり聴いたりすることができるようにしている。<br>4　言葉、身の回りの音や声でリズムを作ったり表現したりする活動を取り入れている。どの題材も音や音楽を通して主体的な音楽活動を積み重ね、音楽のよさや面白さ、美しさを感じ取って表現する喜びを味わえるような構成になっている。<br>5　〔共通事項〕についてはページ上部に「音楽のもと」として示したり「まなびナビ」で触れたりしており、歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞において、児童が〔共通事項〕を手がかりとしながら、楽曲の特徴や、そのよさを感じ取ったり知的に理解したりしやすいようになっている。また、巻末に音楽を形づくっている要素をまとめている。２年以上はそれらに関わる音符、休符、記号等についてもまとめられている。<br>6　歌唱については､｢歌声とリズムのトレーニング｣のスキルアップもあり、発達段階に応じて必要な声の出し方等が丁寧に扱われており、「まなびナビ」に工夫のヒントも示されているので、思いや意図をもって表現を工夫させやすい。また、器楽については、鍵盤ハーモニカとリコーダーで、器楽の活動を支える演奏の仕方を丁寧な導入（８ページ構成）で扱っている。<br>7　「にっぽんのうた　みんなのうた」として、共通教材の他にも多くの楽曲を扱っている。全学年を通して「日本の音楽」に関する題材を設定し、我が国の「わらべうた」や「民謡」「お囃子」などに親しみ、その特徴やよさを感じ取る学習ができるようになっている。また、巻末に〇〇の歌というコーナーを折込で設け、歌い継がれてきた歌を選択して学べるようにもなっている。国歌「君が代」は、大意や願いを掲載している。<br>8　鍵盤楽器、リコーダーの導入を特に丁寧に扱っている。中学年の器楽では､オルガンや筝などを学校の実態に応じて選択できるようになっている。高学年では、合奏においてそれぞれのパートを演奏する楽器を選択できる教材になっている。和楽器の学習では、歌唱教材や鑑賞教材を関連させながら学習できるようにしている。<br>9　音楽づくりについては、全学年を通して題材の中に「音のスケッチ」というコーナーを設けている。言葉や声、音などでどの児童も即興的に表現できるように工夫され､音楽づくりの楽しさを味わわせるようにしている。<br>　音楽をつくることによって、いろいろな音楽がどのようにできているのかを知るきっかけとなるように、歌唱や器楽、鑑賞との組み合わせに留意して設定してあるので、思いや意図をもって表現する力を伸ばしていけるようになっている。<br>10　鑑賞については、曲想や音楽を形づくっている要素に特徴のある教材が取り上げられており、絵譜などを活用して聴くことで、音楽の構造や要素の関わりなどを感じ取ることができる。 |

| 教科書種目 | 発　行　者 | | 教科書名(シリーズ) |
|---|---|---|---|
| | 番　号 | 略　称 | |
| 音楽 | 27 | 教芸 | 小学生の音楽 |

| 項　　目 | | 項　目　毎　の　調　査　研　究　結　果 |
|---|---|---|
| 各教科共通の選定の観点 | 1　内容の範囲及び程度 | ○学習指導要領の目標が達成できるような題材構成になっており、教材が充実している。<br>○歌詞の内容やリズム、音域など、各学年の発達段階に応じた教材となっている。学年の発達段階に応じた楽曲や音楽活動が用意されている。 |
| | 2　内容に関する配慮事項 | ○題材は、1年生から6年生まで系統的に構成されている。題材のはじめのページに「～できるかな」とねらいを示している。また、目標やまとめも示されている。<br>○「学習マップ」で、1年間の見通しがもてるようにしている。<br>○すべての子どもたちが学習内容へ迫ることができるように、技術的な難易度が発達段階に即したものになっている。<br>○音楽的な感受を土台として思考・判断し、理解したことを言葉や音楽で表現するといった音楽的な言語活動が促されるように、キャラクターの吹き出しによって活動や考えるヒントや言語活動例が示されている。意欲をもって主体的に学習できるようにしている。<br>○題材に合わせて、歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞の活動が組み合わされており、負担過重にならないように教材もバランス良く配分されている。 |
| | 3　分量 | ○題材、教材の分量は、各学年の授業時数から見て適切である。<br>○表現(歌唱、器楽、音楽づくりの三分野)と鑑賞の二つの領域を偏りなく取り上げている。 |
| | 4　使用上の便宜 | ○「考える」「見つける」「歌う」「演奏する」「つくる」マークが示され、「具体的にどのような活動を通して」「何を学ぶのか」「何ができるようになるか」といった重要な部分が見てすぐに分かるような工夫がされている。<br>○各学年の本文中で学習する重要な理解事項、学習事項について、巻末の「振り返りのページ」でまとめ、〔共通事項〕を踏まえた確実な学びができるようになっている。<br>○タブレット等で学習と関連するコンテンツを参照できる QR コードが多くのページに置かれている。<br>○学年ごとに音楽家の紹介や声を掲載することで、音楽の楽しみ方を伝えている。 |
| | 5　印刷・製本等 | ○区別しやすい配色や確実に識別できる濃度の違いなどユニバーサルデザインへの配慮がなされている。<br>○ユニバーサルフォントで見やすい。 |

| | |
|---|---|
| 教科ごとの選定の観点 | 1　低学年では身の回り（動物や生活）の音の面白さに視点を当てた題材が、中学年以上では地域の音楽に関心を持たせたり音楽と社会の関りに目を向けさせたりするような題材が設定されている。高学年では、世界のいろいろな国の音楽、地域に伝わる音楽、日本の音楽等に触れている。<br>2　曲想と音楽の構造などとの関わりについての気付きや理解のヒントとなる吹き出しが適宜用意されている。また、声の出し方や楽器の奏法などの技能を分かりやすく解説している。<br>3　音楽表現を工夫するためのヒントや音楽を味わって聴くためのヒントがキャラクターの会話やコラムで示されている。<br>4　言葉や身の回りの音、声でリズムを作ったり表現したりする活動を取り入れている。どの題材も音や音楽を通して主体的な音楽活動を積み重ね、音楽のよさや面白さ、美しさを感じ取って表現する喜びを味わえるような構成になっている。<br>5　各教材において学習内容に関わる〔共通事項〕がページの右端に示されており、題材のねらいや学習活動文などにも明確に示して音楽活動との関わりが分かるように工夫されている。また、「振り返り」のページで音楽を形づくっている要素をまとめている。２年以上はそれらに関わる音符、休符、記号等についてもまとめられている。<br>6　「考える」「見つける」「歌う」等に活動内容や学びのヒントを示し、表現方法を工夫できるようにしている。歌唱については、歌い方の工夫が例示され、歌声の出し方もイラスト付きで示されており、児童が思いや意図をもって表現を工夫するための技能を身に付ける用意がされている。また器楽については、楽器の基本的な奏法が写真やイラストとともに明示されており、楽譜や絵譜、吹き出しを使って表現の工夫の仕方のヒントが示されている。<br>7　全学年を通して「日本の音楽」に関する題材を設定し、我が国の「わらべうた」や「民謡」「お囃子」などに親しみ、その特徴やよさを感じ取る学習ができるようになっている。また、共通教材の他に「歌いつごう日本の歌」のコーナーからも楽曲を選択して学べるようになっている。<br>　国歌「君が代」への意識を高められるよう、最終ページに配置し、国歌を歌う（聴く）マナーにも触れている。<br>8　楽器の紹介を「楽器ずかん」等で丁寧にしている。中学年の器楽では、オルガンや箏などを学校の実態に応じて選択できるようになっている。高学年では、合奏においてそれぞれのパートを演奏する楽器を選択できる教材になっている。和楽器の学習では、歌唱教材や鑑賞教材を関連させながら学習できるようにしている。<br>9　音楽づくりの教材は、題材の中で歌唱や器楽、鑑賞の活動と関連付けて取り上げられており、思いや意図を生かした学習を進められるようになっている。また、ワークシートに書き込んだり、図や QR コードを活用したりすることでどの児童も即興的に演奏できるようにしており、音楽づくりの楽しさを味わうことができるようになっている。<br>10　鑑賞については、図形楽譜や聴く時のポイントが示されており、曲想や音楽を形づくっている要素との関わりを感じ取りながら聴けるように工夫されている。 |